



[発行所]

中友会

港区西新橋1-22-13
全日本中学校長会館202号室
東京都中学校長会事務局内
TEL 03-3504-8705
FAX 03-3504-8706

会則第2条

●親睦
●互助
●生涯学習

<https://chuyu-kai.org/index.html>


今中友会の会員は

中友会副会長 一坂 倭子

コロナ禍による様々な規制の収束が解けて、世の中が急速に動き出しました。学校では三年ぶりの入学式、新年度がスタート出来たことでしよう。会員の皆様も、外出を控える日々を過ごし、運悪く感染した方も、運良くすり抜けた方も明るく今年の桜を楽しむことができたでしょうか。中友会の活動も今年度は事業の実施を目指し計画中です。

本会では、行事・会合の開けない期間も会報「中友会」の発行で会員の皆さんをつなぐ事業として続けてきました。その会報最近の三号で約九〇名の会員から「会員の窓」に自由な記述をいただきました。「読む会報」から「参加する会報」へ、貴重な投稿をありがとうございます。そこで、改めて皆さんが何に関心を持ち、どのような日々を送っておられるのか、大変大雑把ではありますがカウントしてみました。その皆さんの関心事から、今後の中友会の事業の方向が見えてくるのではないかと考えたからです。

年齢はほぼ七〇〜八〇代の方です。その2000字程の短文の中にも現在の生活や心情がよく伝わ

り、さすが前歴が……といえる短文です。

記述内容は（数字は人数）

① 退職後、大学等の教育機関や地域交流の場での活躍の記述22

この方々は教員育成に関り退職後新たな使命を持つて、有意義な数年であり、人生百年時代に大きな意味を感じます。

② 我が人生を振り返って、現職時代の思い出や教え子との関り 17.

教員であったことの誇り、苦労と喜びは他の職業人とは全く異なる面を持ち、その間の家族の支えに感謝していると記述が続きます。

③ 充実の趣味生活 12.

自分の趣味以上に、指導者として交流の場を運営している方もいます。頼まれると断れない、身に着けたことを教えたい教師魂のようです。

④ 現在の社会情勢、環境問題、ウクライナ情勢、子ども未来、教育環境の変化の記述 6

激しい世の中の変様、人の心情の変化等についていけないと憂慮しながら、自分にできることを考えながらの日々。

⑤ 今を楽しむ、これからも学び続ける 20.

③とも重なりますが新たな資格取得や生きる目標につながる記述で、まだまだ何でも出来るという意気込みを感じます。

⑥ 今後も健康維持にとめる、病後のリハビリ中、家族の介護中等 14.

誰もが避けることのできない道、自分がどう命に向き合うかを考える大切なこと。

今落ち込んで途方に暮れているという方の投稿は困難と思いますが、この「会員の窓」に見える会員の日々は、学校を離れて生き生きとしています。

退職して一五年も経てば、今も学校と直接関わっている方は少ないようですが、私は学校や子どもの報道に接するとハット立ち止まりその背景に何があったのだろうと考えてしまいます。会員の方もきつとそうだと思います。

これからの子どもたちが学びの場とする先端教育は二〇〇〇年以前の退職者にとっては、かけ離れた世界であり、そもそもICT教育、GIGAスクール、カリキュラムマネジメントとは？ばかりでリモート授業を組み立てることも出来ません。単語程度の解説では「桜は春に咲くね」程度です。時代の変化に対応出来ている会員もおられるとは思いますが、「教室から黒板が消えた」と聞いて以来、私と学校の縁が切れた状態です。

中友会の会員は、精魂詰めて学びの場を作ってきました。その教え子達は、どんどん恩師を超えて今懸命にICT教育、GIGAスクールに取り組んでいます。大きな学校という広場で。

中友会が語れるのは、最先端の子供たちが育つ学校そのものだと思います。